令和４年度「清流の国ぎふ」づくり

自然共生工法写真コンテスト

応募作品

No.１

～

No.20

主催　岐阜県自然共生工法研究会

共催　岐阜県

①

復旧前

復旧後

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	森林への復元
撮影場所	岐阜県高山市岩井町
撮影日	復旧前：2020年8月15日　　復旧後：2022年6月9日
応募者コメント	2020年の豪雨災害で発生した土石流（テレビでも報道）によって荒廃した山地を元に復元するため実施した治山事業。湧水が多いため透水性の高い土留工で斜面を安定に導き、植生を導入して森林への復元を図っている。まだ筋工背面に植栽した苗木は小さいが、活着は良好で今後さらなる安定した森林への復元が期待される。

②

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	山腹急斜面の表土流出防止対策と緑豊かな自然の復元
撮影場所	岐阜県揖斐郡揖斐川町市場
撮影日	2022年7月25日
応募者コメント	エキスパンドメタルの壁面材と杭とをコイルで連結した簡易土留工です。 　山腹斜面での表土流出防止の対策工として、種子付きの壁面工を階段状に設置することで、荒廃した斜面を緑豊かな自然に復元します。

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	生きもの育む頭首工
撮影場所	白川町三川
撮影日	2022年7月28日
応募者コメント	一級河川赤川に設けられていた頭首工であるが、令和３年８月の豪雨災害により流失したため復旧をした。ここでは、本来の設置目的である農業用水を取水することに加えて、２箇所の魚道を設けることにより、地域の宝物である清流の鮎の遡上に配慮した。

④

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	秋色の津屋川
撮影場所	海津市津屋（海津市北部浄水公園）
撮影日	2021年9月25日
応募者コメント	海津市にある津屋川は彼岸花の名所で時期になると堤防一面が赤い彼岸花で染まり綺麗です。地域の方々により大切され保全活動がされています。また、この上流には絶滅危惧ⅠA類であるハリヨの生息地の清水池があります。

⑤

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	河川掘削後からの旧川の流水環境復活
撮影場所	山県市高富地内
撮影日	2022年7月20日
応募者コメント	平成25年度に行った河道掘削工事。その際に鳥羽川独独の水辺（流水）環境復活を願い蛇行復元を行ったが狙い通り良好な自然環境が復元できている。

⑥

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	巨大堰堤と周辺環境との調和
撮影場所	山県市梅原地内
撮影日	2022年7月20日
応募者コメント	平成26年度、平成27年度と本堤工事を行い盛土法面整形後、種子を吹き付けたが低木・中木も植生しており周辺環境と調和しつつ下流の民家を守る役割もしっかり果たせている。

⑦

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	美山大橋下流に繁茂していた竹林・樹木伐採後
撮影場所	山県市岩佐地内
撮影日	2022年7月20日
応募者コメント	令和2年度、3年度と行った樹木・竹林伐採。その際に表土鋤取りと合わせて整地を行ったが仕上げ表面が土砂で周辺環境と合ってなかったが半年以上経ち、雑草が生えたことで景観の調和が取れている。

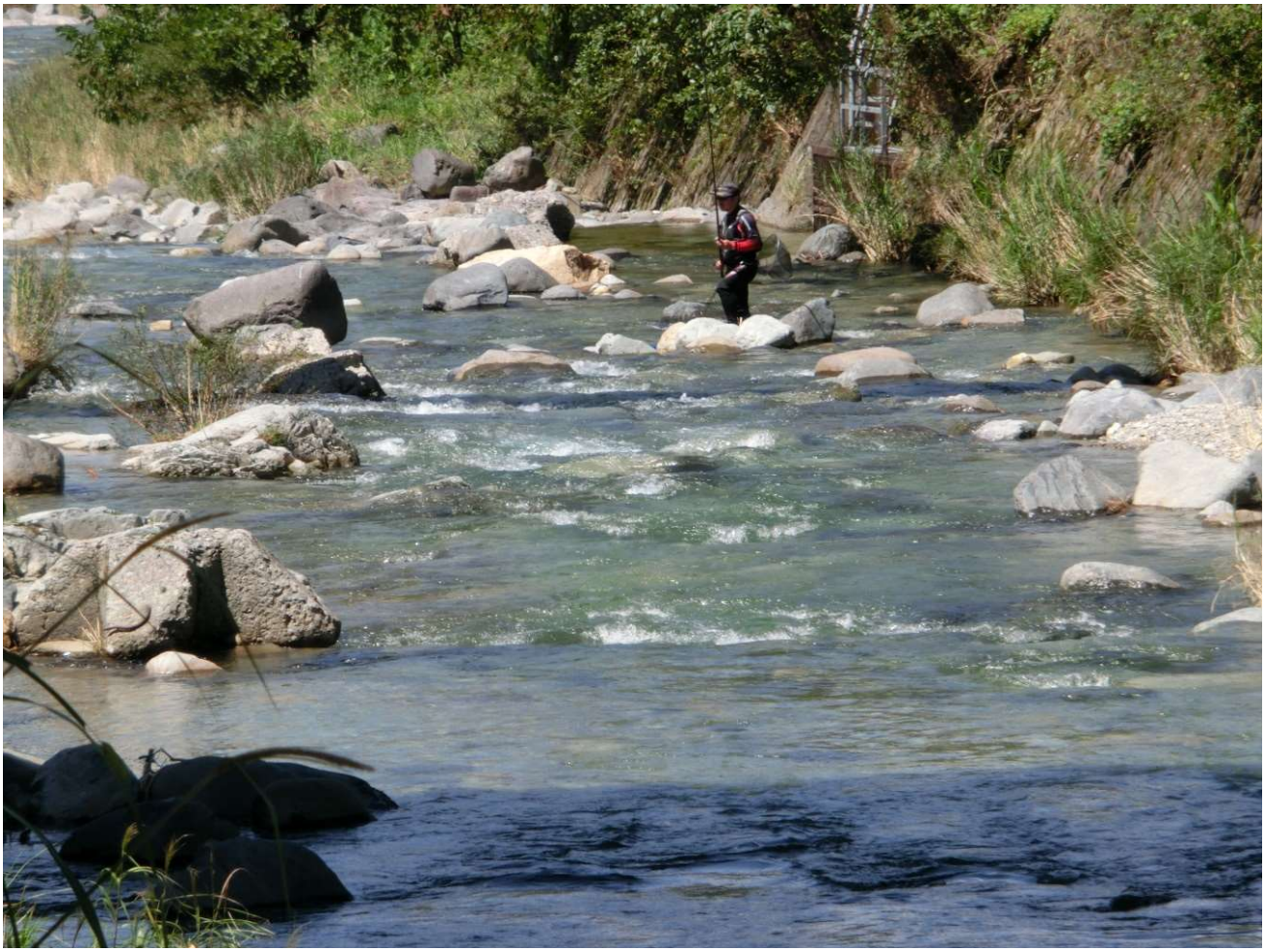
⑧

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	山県ＩＣから降りたあとの景色
撮影場所	山県市西深瀬地内
撮影日	2022年7月20日
応募者コメント	平成28年度、平成29年度と国道256号バイパス工事の切土掘削を行った。周辺の環境を考慮し草や低木だけではなく中木も混ぜて厚層基材を吹き付けたが狙い通り植生し周辺環境と調和している。

⑨

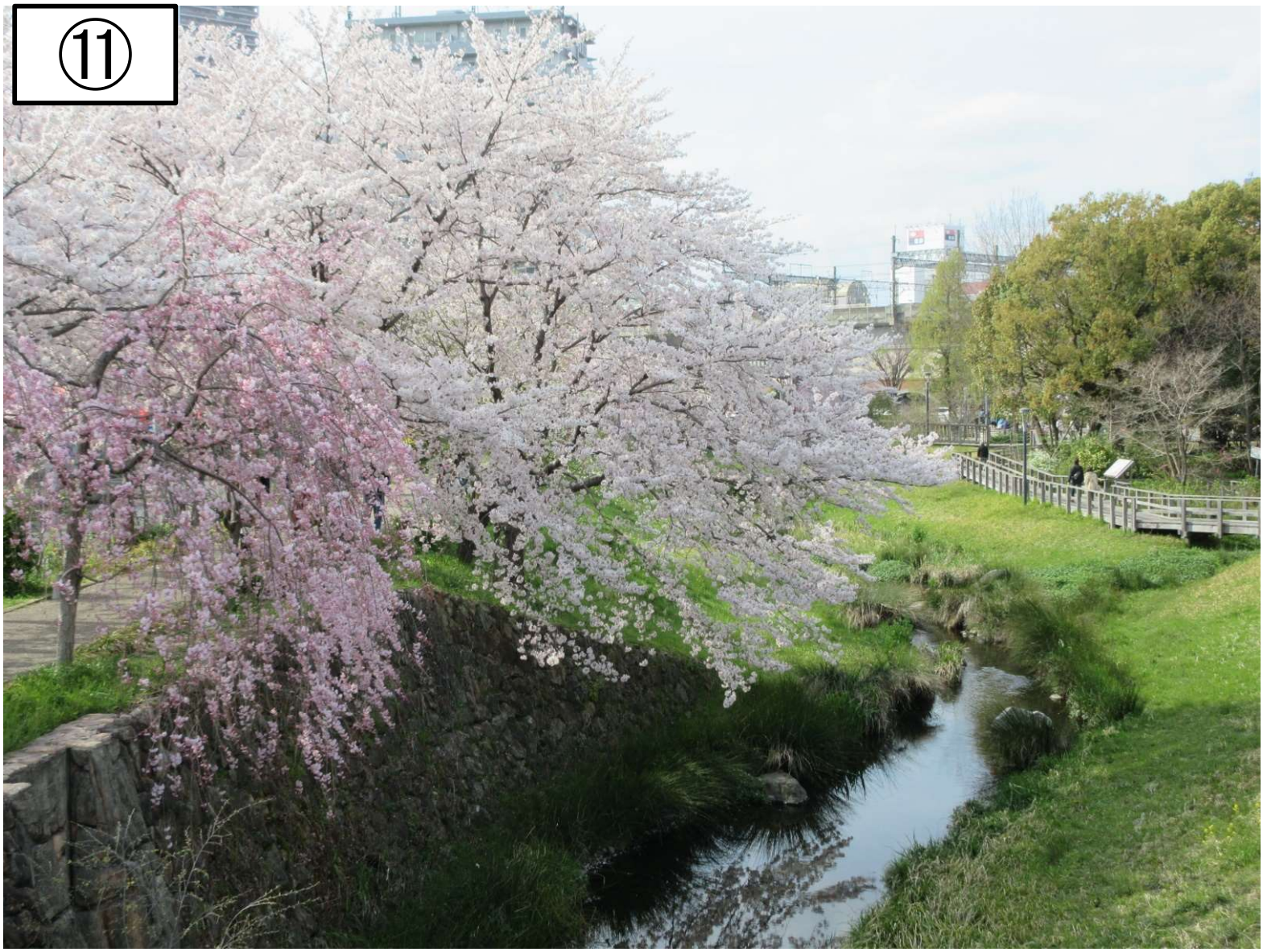
「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	実験的な獣害対策のその後
撮影場所	山県市長滝地内
撮影日	2022年7月20日
応募者コメント	平成27年度の工事を行った際、この地区は植生しても害獣による採食や踏み荒らしによる植生不良が問題となっていたため、法枠工の枠内を植生したのち、金網を浮かせて覆った。その結果、確実な緑化に成功した。

⑩



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	入りたいっ！
撮影場所	岐阜県下呂市竹原地内（竹原川）
撮影日	2021年8月28日
応募者コメント	１年ほど前に撮影した竹原川の写真です。 ここは段組み工法で河川（魚道）整備をしたところであり、整備された川の流れに不自然さは感じられず、水は躍動的で、生き物のように川を下っていきます。気持ちよさそうな水に浸かりたいと思いながら、大粒の汗をかきつつ、写真を撮りました。

⑪



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	清水川と桜
撮影場所	岐阜市加納清水町
撮影日	2022年4月2日
応募者コメント	清水川は河道内で川は蛇行しており、水際も自然です。 両岸には歩道があり、川に親しむことができます。 石積みの石材のひとつひとつは小さく、護岸が目立っていません。 自然に近い川の景色に桜が映えています。

⑫

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	木曽川を臨む木陰
撮影場所	笠松町相生町（笠松みなと公園）
撮影日	2022年5月4日
応募者コメント	木曽川右岸の高水敷を利用した「笠松みなと公園」から、階段で木曽川へアクセスしやすくなっています。 また、植栽によって木陰ができ、初夏のさわやかな風が吹き抜けて、心地よい空間が創出されています。

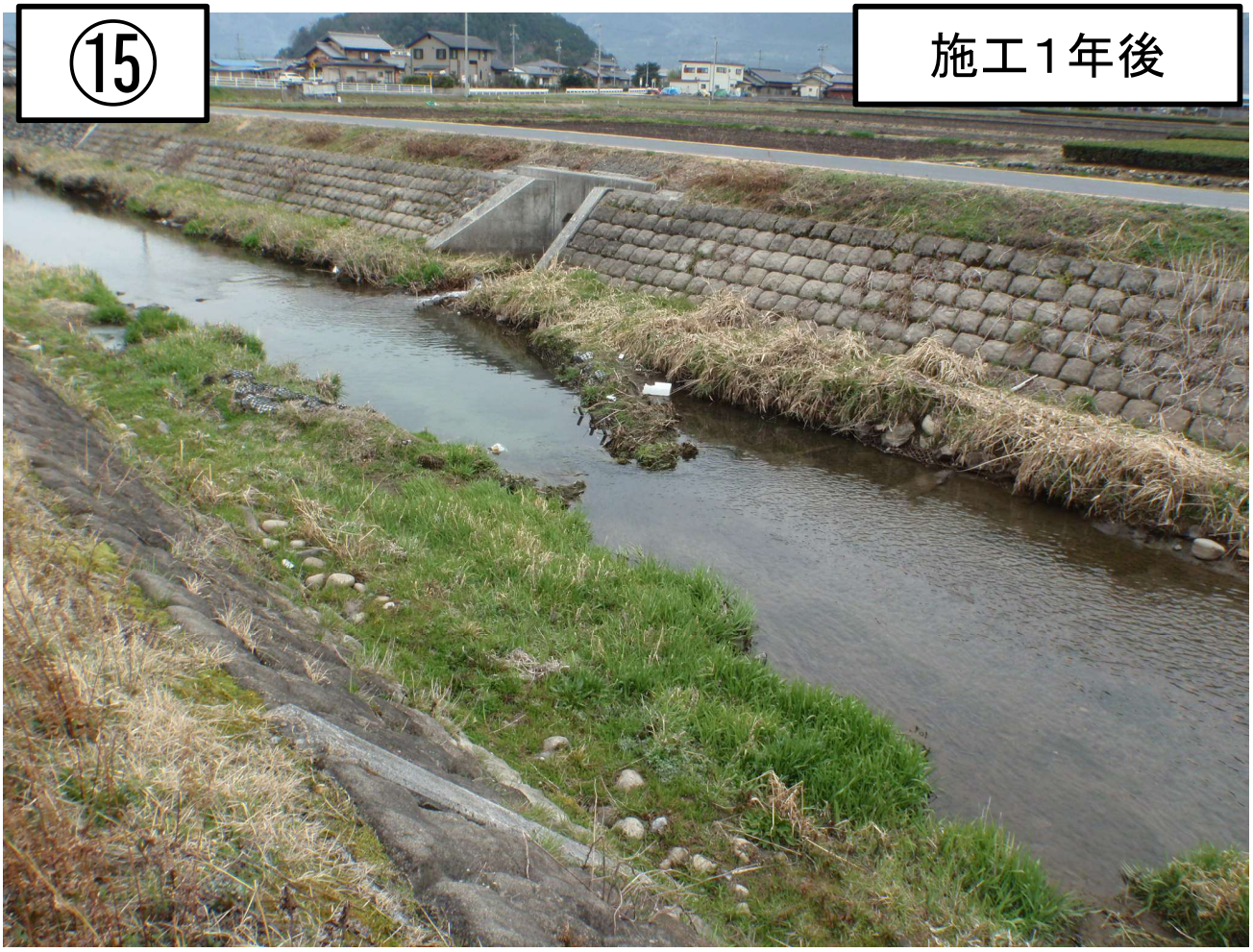
⑬

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	集落に溶け込む水辺
撮影場所	岐阜県可児郡御嵩町井尻　井尻川
撮影日	2022年8月14日
応募者コメント	緩やかな丘陵地に水田・灌漑用ため池を有り、高低差がある地形の中、落差工を有効に生かし、上手に流速を抑える形で河川の整備がされていている。 川岸にも植生があり昆虫等共生できる環境が整いつつある。

⑭

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	靄の中の板取川落差工
撮影場所	岐阜県美濃市
撮影日	2022年8月25日
応募者コメント	景観性に優れる事例として優れていると思います。また、うっすらと靄がかかった写真を撮影することができ、川面の水飛沫の白とマッチし、それが周囲の緑ともよく合っていると思います。

⑮



「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	バーブ工設置箇所のその後
撮影場所	桂川　揖斐郡揖斐川町上南方地内
撮影日	2022年8月24日
応募者コメント	バーブ工は、北米の河川で用いられている工法のひとつで、河床の安定や寄り洲を形成等の効果があります。構造はチューブ状の袋に石材を詰めたもので、先端を川の上流に向けて設置するものです。 　平成２３年度に開催された自然共生川づくり勉強会において２基設置されました。１０年以上が経過し、護岸前面に土砂が堆積して流れに変化が生じるとともに、水際までヨシ等の植生が繁茂し、改修前の環境まで戻っています。

⑯

施工直後

施工７年後

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	桂川河川改修のその後
撮影場所	桂川　揖斐郡揖斐川町上南方地内
撮影日	2022年8月24日
応募者コメント	当箇所は、平成２７年度に県単河川局部改良事業として護岸に連結空積ブロック工、水際部分には寄せ石工、若松谷との合流点付近の河床擦り付け処理としてチューブ状の袋に玉石を詰めた柔構造帯工を施工しました。 　施工から５年以上が経過し、水際部分の土砂が堆積した部分からヨシ等が繁茂し、河川改修前の状況まで回復しています。

⑰

施工直後

施工半年後

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	多自然環境の保護
撮影場所	桂川　揖斐郡揖斐川町上南方地内
撮影日	2021年11月17日
応募者コメント	令和３年度に県単局部改良工事、桂川の工区が完成しました。 桂川では、現況河床のスライドダウンを実施し、水際に寄石工をするなど、多種多様な生態系をできる限り保全してきました。完成から半年経過し、水際には植生が回復しているのが確認できました。

⑱

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	北小木川とホタル
撮影場所	多治見市北小木町　北小木川
撮影日	2022年6月2日から7月11日
応募者コメント	多治見市の北小木川では、ホタルが生息しやすい護岸が整備されてきました。護岸整備が完了して年月が経過していますが、今年の状況を撮影しました。 　毎年生息数調査をボランティアを募りなされており、今年は北小木川沿いに約1,000匹、ゲンジボタルやヘイケボタルが確認されています。

⑲

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	施工後３年を経過した魚道（土岐川　大正堰）
撮影場所	庄内川水系土岐川（岐阜県　瑞浪市　土岐町　地内）
撮影日	2022年8月23日
応募者コメント	岐阜県東濃地方を流下する土岐川に設置した、魚道です。施工後３年を経過しますが、施工直後に見られなかった、澪筋、州が形成されてきています。

⑳

「清流の国ぎふ」づくり自然共生工法写真コンテスト	
作品タイトル	施工後２０年以上経過した魚道（万尺川）
撮影場所	庄内川水系万尺川（岐阜県　瑞浪市　地内）
撮影日	2021年9月29日
応募者コメント	岐阜県瑞浪市の市街地を流下する万尺川に設置した、魚道と護岸工です。施工後２０年以上を経過しています。自然石（玉石）が埋め込まれた間知ブロックで護岸工を施工しており、魚道にも自然石が埋め込まれています。町の景観になじんでいます。